



シブヤ未来科について

グローバル社会で活躍する自律した学習者をはぐくむ シブヤモデル「未来の学校」

探究「シブヤ未来科」スタート!

ICT×探究 + 地域×企業



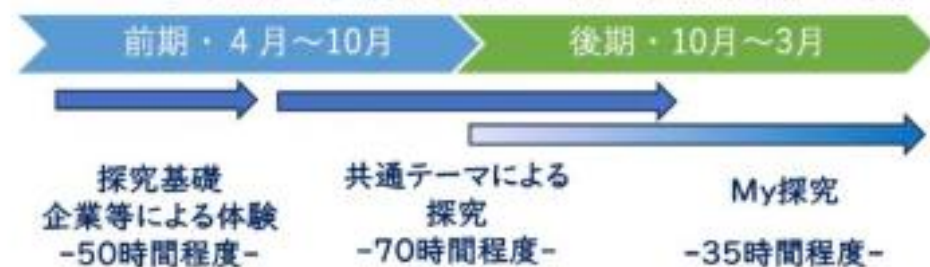
学校の1日の流れの例(令和6年度)

中学校は、時間講師の関係で、午後の探究時間に変更もあります。

月～金	
午前 1～4校時	教科を中心とした授業 国語、社会、算数・数学、理科など
午後 5～6校時	探究 主として「シブヤ未来科」の時間 ～子ども主体の学び～ 総合的な学習の時間、道徳、特別活動等

探究の1年の流れの例(令和6年度)

例:小学校6年生 総合的な学習の時間の年間授業時数155時間



前期(～夏休み)は、各教科の見方・考え方に基づいた探究の進め方やスキルを学びます。また、渋谷区や各学校と関連のある地域の方や企業等とコラボして魅力ある体験活動を経験することで、「すごいな」「驚いた」「不思議だな」「なぜだろう」といった子どもたちの感動、発見、疑問を「問い」につなげます。

夏休み明け以降は、学校が定めた共通テーマによる探究や、子ども一人一人が立てた「問い」を探究していくMy探究を通して情報収集や整理・分析、まとめ・表現の力を高めていきます。最終的には My探究の時間を増やしていきます。

先生が教える授業から、子どもが学びを創る授業へ!
シブヤ未来科で『探究』の時間が充実します!

未来に求められる3つの能力

時代とともに学び方や学校の役割も変化していきます。
渋谷区では「自ら考え判断して学び続けていく自己調整力」「多様な仲間と協働して新たな価値を生み出す創造力」「自分が思い描く未来を実現していく挑戦力」の育成に重点をおき、個別最適な学び、協働的な学び、そして探究的な学びを重視して、シブヤモデル「未来の学校」に向けた新しい教育を進めています。

「探究」することで、教科での学びを本当の学力へ

探究的な学びを充実させるのが、「シブヤ未来科」の探究の時間です。教科の学習で培った見方や考え方・スキルは、日常生活や社会の事象を考察する場面において生かされなくては本当の学力として身につけません。「シブヤ未来科」の探究の時間は、それを最大限に生かす時間です。

他者と協働的に問題を解決したり、問題解決の過程を自ら振り返ったり、方法や手順を的確に記述したり伝え合ったりする探究活動は、従来の教科等の学習の中でもありましたが、「シブヤ未来科」の探究の時間を通して、グローバルな視野をもった主体的な探究活動を充実させ、生きて働く本物の学力を身に付けていきます。

■文部科学省 授業時数特例校制度 を活用します!

令和6年度は、文部科学省「授業時数特例校制度」を区立全小・中学校で申請・活用します。国語や算数・数学など、各教科※1の授業時数の一部(1割)を総合的な学習の時間に上乗せすることで、探究の核となる総合的な学習の時間の充実を図ります。

※1 学習指導要領に定められた各教科で学ぶ内容は変わりません(減りません)。また、音楽(中学校第2,3学年)、美術(中学校第2,3学年)、技術・家庭、特別の教科 道徳、外国語活動、特別活動の授業時数は、制度の規定により、総合的な学習の時間への上乗せはしません。

令和5年11月
渋谷区教育委員会事務局教育指導課
電話 03(3463)1211

①Our探究

- ・従来の総合的な学習の時間

各学年70時間配当

3年生・・・まちづくりをテーマに、地域のために学んだことを活用

4年生・・・伝統文化をテーマに、地域のために貢献をする

5年生・・・食をテーマに、地域や世界のためにできることを考える

6年生・・・SDG's全般を学び、地域や世界のSDG's実現に向けて活動

②My探究

一人一人が探究課題をもち、課題を解決していく時間

令和7年度は**前期から年間**を通して行う。

隔週**金曜日の5, 6時間目**（3年生以上）実施日は行事予定表

9月の学校公開で報告会、2月の学校公開で発表会（詳細未定）

4月のTDLでMy探究の流れを全校で共通理解

例 各教科での学びの発展・・・室町文化を実際にやってみたい

Our探究に関するテーマ・・・ジェンダー平等について日本が遅れ

を取っている原因と解決策を考えたいな

③スキル探究

外部の大人と関わっていく児童に、話し方やマナー等を理解させたり、表現方法や探究学習に必要な知識技能を獲得する時間

国語などの教科と関連をはかる。

- ①名刺を作って全員が持つこと
- ②敬語・謙譲語の理解
- ③電話やメールのマナー
- ④対話の素地となる人間関係の構築
- ⑤ICT活用の技能
- ⑥探究学習の理解と資質の向上

旧学年の先生からどこまでスキルが育っているかを聞いておくのもいい

④学校づくり探究

昨年度までのイベント探究、たてわり探究を学校づくり探究とする。

学校行事をより自分事として主体的に取り組む時間

①宿泊行事をよりよい体験にするため

※6年生は日光の行程を自分たちで計画してみてもいいのではないか。

②運動会や学芸行事を自分たちの表現の場として

③式典や異学年への意識を高める

委員会・クラブ・かやのみ班・鼓笛の活動を異学年での児童中心の探究の場に

・クラブ・委員会は最初と最後の2時間は特活で時数をカウント。それ以外は総合。

学年の行事		1年生をむかえる会			日光高原学園				
6 学 年	Our探究（総合）		ACTION!地域の ために (日本総研)	7	ACTION!地域の ために (日本総研)	8	ACTION!地域の ために (日本総研)	7	
	My探究	My探究オリ① 課題設定①（学 級で）	2	My探究計画① My探究②	3	My探究	6		
	スキル探究								
	学校づくり探究	クラブ・委員会 組織（特活）① かやのみ班① 全校遠足に向け て①	2	委員会① クラブ① かやのみ班①	3	クラブ① 千駄谷150周年 探究② 委員会①	4	日光に向けて② かやのみ班①	3
	合計	午後計13	4	午後計31	13	午後計32	18	午後計13	10

時間割の編成について

基本は午前は教科学習、午後は探究型学習

柔軟に！！

ミライ科で埋まらない午後の時間は各教科（道徳・特活・外国語中心）で充てる

なるべく、探究的な授業スタイルで。→千小の先生の強み

※学校づくり探究として、今までのイベント探究や縦割り探究を入れ込む。展覧会の共同作品で総合4 - 5時間をカウントする。鼓笛もそこに入れる。

まとめ

- ・ 変革による負担を軽減しつつも、**3年計画**で理想のシブヤ未来科を
- ・ 次年度は、情報交換の場を積極的に取り、**チーム一丸で挑戦**する1年
- ・ **外部人材**のさらなる開拓を
- ・ **教員も**児童と共にわくわく探究